

第1学年 国語科 学習の指針(シラバス)

1. 教科の目標

- (1) 相手に伝わるように工夫したり、相手の話から学ぼうとしたりする意識をもち、目的や場面に応じた的確に話したり聞いたりする能力を身につける。
- (2) 自分の立場を明らかにして、筋道を立てて書き表す能力を身につける。また、文章を書くことによって自分の思いを確かにしようとする態度を身につける。
- (3) 自分自身の力で粘り強く文章を読み、書いてある内容を着実に捉えるための力を身につける。
- (4) 音読、文法、語彙、様々な言葉に関する活動に取り組み、言葉に関する意識を高める。

2. 学習計画

学期	学習内容	学習のねらい	
1 学期	ふしぎ 桜蝶	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の魅力やおもしろさを捉える。 ・物語と小説の違いや小説を読む時にどのような点に注目すべきかについて考えを深める。 	
	お気に入りの一品を紹介する 文法の小窓1言葉の単位 自分の脳を知っていますか 資料から得た根拠をもとに意見文を書く	<ul style="list-style-type: none"> ・思いを効果的に伝えるための工夫を考え、ペアでスピーチを聞き合い、よかったところを伝え合う。 ・文章、段落、文の違いを理解する。 ・筆者の考えを文章にまとめ、相互評価する。 ・自分が取り上げた話題について調査した資料を比較して、共通点や相違点を整理する。 ・根拠を明確にして文章の構成を考え、文章を書く。 ・資料の読み取りや構成の工夫について確認し合う。 	
	漢字の広場1 漢字の部首 言葉の小窓1 日本語の音声	<ul style="list-style-type: none"> ・「部首」という概念を理解し、漢字の「部首」を確認したり、「形」から「義」や「音」を類推したりする。 ・「五十音図」を読み、日本語の「子音」と「母音」の違いや、音の特徴について理解する。 ・「アクセント」「イントネーション」を変化させることによって、どのように意味が変わるのか、またそれによってコミュニケーションにどのような影響が出るのか考える。 	
	内容を整理して説明する	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の計画をわかりやすく説明する。聞き手の反応を見ながら話す内容や順番を変える。 ・互いの発表についてよかった点や改善点を話し合い、よりよい話し方、聞き方について学び合う。 	
	ベンチ 全ては編集されている／写真で「事実」を表現する	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の集め方を理解する。 ・情報の扱い方を理解する。 	
	漢字の広場2画数と活字の字体	<ul style="list-style-type: none"> ・正確な画数と字形に基づいた文字を書く態度を身につけるとともに、漢和辞典の総画索引や部首索引を使用する方法を練習する。 	
	材料を整理して案内文を書く	<ul style="list-style-type: none"> ・誰に何を案内するのかを考え、必要な情報を集めて整理する。 ・相手や目的を意識しながら案内文を書く。 ・相手の立場になって案内文を読み合う。 	

<p>2 学 期</p>	<p>持続可能な未来を創るために— 一人の暮らし方を考える／「エシ カル」に生きよう</p> <p>森には魔法つかいがある</p> <p>文法の小窓2</p> <p>文の成分</p> <p>根拠を明確にして意見文を書く</p> <p>広告の情報を考える</p> <p>昔話と古典 物語の始まり</p> <p>故事成語</p> <p>蜘蛛の糸 河童と蛙 オツベルと象</p> <p>随筆を書く</p> <p>言葉の小窓2 日本語の文字 子どもの権利</p> <p>調べた内容を聞く</p> <p>漢字の広場3 漢字の音と訓</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問いと答えを確認し、筆者がたどった問題解決の道筋を整理する。 ・ 自分の課題を発見し、考えを共有する。 ・ 問いとその答えを見つけていく展開を捉えて読む。 ・ 文節と文の成分の関係、連文節、主語・述語の関係について理解する。 ・ 主語・述語以外の文の成分には修飾語・接続語・独立語があることを理解する。並立の関係・補助の関係について理解する。 ・ 根拠を明確にして自分の考えを書き、根拠を確認し合う。 ・ 広告を構成する要素を具体的にあげ、共通点や相違点を整理し広告の「工夫」について理解を深める。 ・ さまざまな古典作品について知り、古典の仮名遣いにふれる。 ・ 『竹取物語』について調べ、絵本などの「かぐや姫」と『竹取物語』の異なる点を文章にまとめたり、話し合ったりして、そのおもしろさを考える。 ・ 現代語とは違う意味で用いられている語や、現代語ではあまり用いられない語、現代語と同じ意味の語をあげ、古典の言葉と現代語のつながりについて考える。 ・ 『矛盾』の盾と矛を売る人の話でつじつまの合わない点について考え、発表する。また、『助長』の意味を国語辞典と漢和辞典とでそれぞれ調べ、現在どのような意味で使われているか確認する。 ・ 漢文訓読のきまりを理解する。 ・ いろいろな故事成語の意味や由来を調べ、それを使って表現する。 ・ 日本を代表する作家とその作品についてふれ近代の小説や物語を読む。 ・ 登場人物の役割を捉え、作品の世界を生かすように朗読する。 ・ 作者と語り手について理解する。 ・ 擬声語・擬態語の使われ方の特徴とその効果を考える。 ・ 語り方の変化を捉える。 ・ 身近に起こったこと、経験したことなどを思い浮かべ、そこから新しく発見したことやそのことの自分にとっての意味を考え、随筆に書く内容を決める。 ・ 随筆にふさわしい表現があることを理解したうえで、最も適切な言い回しを意識しながら随筆を書く。 ・ 書いた随筆を生徒どうしで読み合い、工夫した言い回しを確認し合う。 ・ 日本語を書き表す文字の特徴について理解する。 ・ 筆者の説明の仕方の特徴を理解する。 ・ 知識を学ぶことや教育を受ける権利について考えたことを話し合う。 ・ グループごとに「調べたこと」と「考えたこと」を整理して課題を確認し、解決方法と結果を予想する。 ・ 漢字がそれぞれにもつ「音」と「訓」、二つの読み方の違いに注目し、使い分けや留意すべき特質について理解を深める。
	<p>言葉がつながり世界遺産／地域から世界へ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 筆者が問いかけている文と、その答えにあたる文を探し、事実と意見を整理しながら筆者の意見を捉える。 ・ 題名にこめられた筆者の思いに対する自分の考えをまとめる。

3 学 期	読み手を意識して報告文を整える 文法の小窓3単語のいろいろ	<ul style="list-style-type: none"> ・報告文のテーマを決め、テーマに関わるデータを集める。集めた調査結果を読み取り、書く順序を考える。 ・活用のある単語と活用のない単語の区別を理解したうえで、文の中でのはたらきによって十の品詞に分けられることを理解する。 ・品詞分類表によっての品詞分類の全体像を把握し、具体的な文例に即して言葉を分けて考えることの大切さを理解する。 ・さまざまな意見を整理して言葉の定義を決める。 ・漫画のコマの並び方の効果を確認する。作品の解釈や読み手への意識と漫画の絵柄や言葉との関係について考える。
	発言を結びつけて話し合う 漫画で「物語」を表現する 漢字の広場4熟語の構成 四季の詩 少年の日の思い出 言葉の小窓3方言と共通語	<ul style="list-style-type: none"> ・構成法の各型に関する理解を深める。三文字以上の熟語の構成法についてグループ学習で確認する。 ・それぞれの詩のイメージを想像し、どのような季節感が描かれているか話し合う。 ・作品の語り方と構成を捉える。 ・現在の場面と回想場面のできごとを整理する。 ・登場人物の心情の変化を捉える。 ・方言の歴史やさまざまな方言について理解する。

3. 評価

項目	評価の内容	評価の方法
知識・技能	言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化についての知識及び技能を習得しているか。それらを関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できるか。	<input type="radio"/> テスト <input type="radio"/> 文法小テスト
思考・判断・表現	知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な「話す力・聞く力」、「書く力」、「読む力」を身に付けているか。	<input type="radio"/> テスト <input type="radio"/> 授業課題(ワークシートや作文課題等)
主体的に学習に取り組む態度	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているか。	<input type="radio"/> 提出課題 <input type="radio"/> 授業への取り組み ※ 「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で評価を行う。

4. 確かな学力のためのアドバイス

- ・知識及び技能の習得に結び付くよう、学習の進め方を工夫してください。
- ・わからない言葉の意味を調べ、理解した上で、普段から話や文章の中で積極的に使うことを意識してください。
- ・普段から文章を読んだり書いたりする際は、論理の展開を意識してください。
- ・本や新聞を読んで、文章に慣れ親しんでおくことも大切です。